

やんさノエ

会報

2009 No.11



発行 江差追分会

2009.5.20

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>

故 飯島幸平氏を偲ぶ 追分レコードコンサート



半世紀を迎える 江差追分 …… 江差追分会会長(江差町長) 浜谷一治

去る四月二十六日(日)江差追分会の平成二十一年度総会がホテルニューえさしで開催され、提案した案件が全て議決されました。

去る四月二十六日(日)江差追分会の平成二十一年度総会がホテルニューえさしで開催され、提案した案件が全て議決されました。

これらも偏に総会に出席された

これらも偏に総会に出席された

ぶ会員の「力」であることは間違いない事実であり、正に「継続は力なり」であります。この全国大会も三年後(平成二十四年)には第五十回目の大会を迎えることとなります。この五十回目の大会は、単に半世紀を過ぎたと言う過去を振り返るのではなく、更に未来に向けて「江差追分」はどうあるべきか、の進路を確立する大会にしなければなりません。この節目の大会が今後の「江差追分」の浮沈がかかっていると言っても過言ではないでしょう。この重要な大会を成功させ、江差追分を未来に引継いでいくために会員皆様のこれまで以上のご理解とご協力をお願いすることは勿論のこと、会員以外の有識者等からも多くの意見と助言を戴くことも考慮しなければならぬでしょう。あと三年後とは言え「光陰矢の如し」です。今年からでも内容の検討等も含めて支部長始め会員の方々からご助言を戴くことにしたいと考えております。五十回大会の年は、オリンピックの年でもあります。会員各位のご協力を得て素晴らしい記念大会と、未来の江差追分の在り方を確立して参りたいと思います。会員各位のご健勝とご隆盛を心から祈っております。

平成二十一年度江差追分会総会

熟年全国大会年齢くりあげ始動

音源・文献の整備に重点

江差追分会本年度総会が四月二十六日江差町ホテルニューえさしで、全国各支部の代表が参集して開催され、追



分全国大会など本年度の事業計画と予算が決定された。

予算総額は二、六七二万九千円で前年度より二九二万六千円減額となったが、追分会が委託されていた追分会館の窓口事務が民間に委託されたもので、追分会の事業内容は前年とほぼ同額で計上された。

事業計画では、会員の高齢化でその対応が検討されてきたが、本年度より熟年全国大会出場年齢が繰り上がり六十六歳からとなり、六十五歳までが一般出場となる。今後毎年繰り上がり五年後からは熟年出場七十歳に変更される。高齢者の増加により熟年決選出場枠も前年より五名増の二十五名に変更される。

全国一〇地区でおこなわれている全国大会予選会は昨年より地区協議会で自主的に運営する方針を実行してきたが、さらに審査、事務運営を強化して独自に移行する方針が提起された。

追分の音源テープや文献資料など追分を伝承する貴重な資料を保存し有効

に活用するための資料整備をすすめる。全国大会などの音源テープが大量に保存されているが、未整理で劣化するためDVDに再収録する予算も計上した。更に再興記念事業「風涛成歌」で出版した追分ルーツ集のCDも再版する。

後継者育成事業

後継者の育成は、追分文化を次世代に引き継ぎ、さらにわが国の邦楽文化を伝承するうえで欠かせない課題である。国の文化普及施策と連携し、小中学校、高校、専門学校に対する追分の指導普及活動を積極的に進める。

指導計画の内容としては、芸術家派遣事業（江差町）伝統文化こども教室（旭川市）江差高校、滝川高校、道立高等看護学院で追分指導を実施する。さらにこどもヤング発表大会などで各地域の交流を進める。

追分普及と販売部門の展開をかねて追分にかかわるグッズ制作販売を多角的に進める。

本年度総会では任期満了による多くの役員が再選されましたが三人の理事が交代しました。（新理事は別記）

第四十七回江差追分全国大会 アトラクション構想提案

本年度全国大会アトラクションは江差追分が今日に至る過程でかわりをもったと思われる民謡のなかで、津軽、南部民謡をとりあげ交流をはかるとともに追分の本質をさぐる構想が提案された。なお実施案は検討のうえ本年七月の理事会で決議決定する。

- 一. 九月十八日、十九日の予選会では、各地区地域の地元民謡の出演希望を募り出場を決める。
- 二. 九月二十日決選会は「奕世伝来の奥義 江差のうたの源流とその魅力（仮題）」
 - 一. 後継者育成の交流（オープニング）津軽民謡ちびっ子踊り王座
 - ・手踊り（津軽おしん）
 - 二. 江差追分の母とも言われる三下りを訪ねて
 - ・津軽三下がり他
 - 三. 江差追分の父とも言われる謙良節を訪ねて
 - ・津軽山唄他
 - 四. 江差餅つき囃子の源流・あいや節を訪ねて
 - ・津軽あいや他
 - ・江差餅つき囃子
 - 五. 江差追分会会員による津軽五大民謡全国大会優勝者の息吹他
 - 六. 津軽民謡手踊り（エンディング）

第四十六回 全国大会 安澤望さん 優勝

町内勢八年振りの快挙

第四十六回江差追分全国大会では江差町の安澤望さん（和春会）が町内では八年振りの優勝を飾った。実力が伯仲し地元での優勝が難しくなっているだけに「江差の文化がしっかり地域でうけつがれるのはうれしい」と関係者は喜んでい

る。熟年優勝は胆振白老町の主婦松谷敏江さん、少年優勝は江差中三年（当時）の中島琴美さんが第七回大会に続いての連勝をなしとげた。

江差追分全国大会で優勝した

江差の海を眺め、江差追分を耳にして育った。「だから、舞台上で歌っている目も浮かんたのは江差の情景なんです」

安澤望さん



母に言った。「カモメ、習いたい」。江差追分という言葉を知るより先に、歌を覚えていた。東京の大学に進学。一人暮らしのアパートで、けいこ代わりに師匠の歌をCDで聴いた。追分

がこれまでになく心に染みて。実家から見渡せる海が頭をよぎった。望郷をうたった追分の心と重なり、真剣に追分に向き合ってみようと決めた。大学卒業後、江差に戻って五年半。町臨時職員

として働いて、師匠の元で努力を続けた。身長一五二センチの細身の体。少ない息継ぎで歌い切る江差追分では声量が足りず不利とも言われたが、基本譜に忠実な節回しが、張りのある伸びやかな歌声にゆとりを持たせた。英語教諭の資格を持ち、教育の道を志望するが、これまでは追分が優先だった。「一つのことを続けてきたのは追分だけ。自信になった」。やっとなりの夢に向かえる。二十八歳。

(細川伸哉)

2008.9.25 道新

2008

一般の部入賞

- 準優勝 日和 義貴 札幌南
- 三位 福士 優子 千歳
- 四位 西川 俊昭 乙部鷗翔会
- 五位 瀧本 豊寿 深川
- 六位 杉本 武志 菊水会
- 七位 間島 正晴 札幌白石
- 八位 東 真喜子 乙部鷗翔会
- 九位 井上さつき 江友会
- 十位 黒森このみ 札幌南

第十二回熟年全国大会入賞



優勝 松谷敏江さん

- 優勝 松谷 敏江 白老白声会
- 準優勝 能登谷秀雄 声友会
- 三位 国府 克 京都ふるさと
- 四位 奈良たか子 帯広
- 五位 鈴木 弘 帯広

第十二回少年全国大会入賞



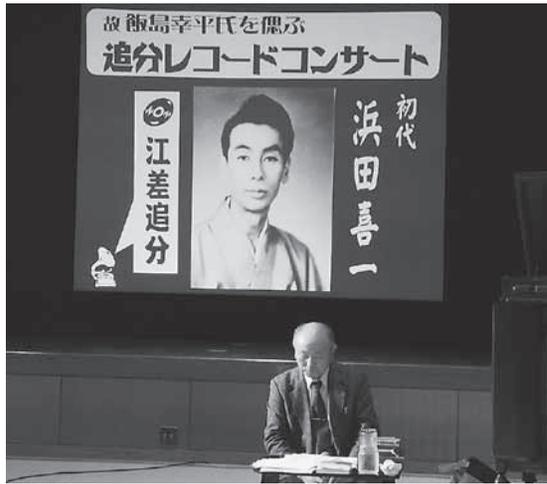
優勝 中島琴美さん

- 六位 藤本 哲 声友会
- 七位 榎本弥惣七 網走声友会
- 八位 大柳 宣之 大阪金剛
- 九位 細木 利良 大平原
- 十位 鈴木テル子 鷗声会

- 優勝 中島 琴美 かもめ会
- 準優勝 横川 夏姫 札幌鷗憧
- 三位 川畑 貴寛 和春会
- 四位 田村つくし かもめ会
- 五位 田村ひより かもめ会
- 六位 三谷 葵 札幌南
- 七位 須藤 栞 菊水会
- 八位 植田 玲奈 大和菊華会
- 九位 中島 弥生 かもめ会
- 十位 渡部 愛未 札幌南

飯島幸平さんをしのぶ

追分レコードコンサート 多様に唄われた音の魅力…館 和夫



となつて見事に実を結んでいることは周知のとおりである。

その飯島氏を追悼するため、今回のコンサートでは、追分節を中心に次のような二十三名の唄い手の唄を、主として同氏寄贈の名機ヴィクトローラを使って紹介することにした。

- 碓氷馬子唄・樺沢芳勝○追分馬方節・平野源三郎○馬子唄・赤坂小梅
- 信濃追分節・渡辺善吾○越後追分・藤ノ井月子○江差追分・平野源三郎○同上・村田弥六○同上・越中谷四三郎○同上・三浦為七郎○同・金谷(三橋)美智也○同上・今井篁山○松前追分・札幌米松○追分・涙

昨年の十月二十五日、千葉県の自宅で惜しまれながら八十六歳の生涯をとじた飯島幸平さんは、カワカ印で知られる大きな金物商を営む傍ら、日本一の民謡レコードコレクターとして知られた人で、日頃から初代浜田喜一師について追分を習い、また、地元民謡などの研鑽に努めておられた熱心な民謡研究家でもあった。

平成十年五月、SPレコードなど約八百枚の音源を、高級蓄音器と共に江差町へ寄贈され、今日、追分会館内に「飯島コレクション視聴室」



- 堂○追分・長崎愛八○江差追分・函青くに子○同上・山本麗子○同上・初代浜田喜一○同上・飯島幸平○同上・佐々木千代吉○江差三下り・近谷林三郎○江差追分・柿崎福松○同上・今義美○同上・青坂満

選曲にあたっては、追分節の原点である馬子唄から現代の標準的な江差追分に至るまでの唄の流れをごく簡単に概観すると共に、それらの唄が歌い手の職業や、時代、おかれた境遇によつていかに多彩に個性的に唄われてきたかを示すことに主眼を置いた。つまり「型から入つて型から出るべ

し」(後藤桃水翁)という、その昔の民謡界の大御所が喝破した命題を、多くの追分指導者を含むこの日の聴衆に、あらためて思い出しただこうとしたわけである。

当日参加された約七十名の聴衆の中には「時間が足りなかった」という感想をもらしていた人もおり、古い時代の追分の唄いぶりに共感した人も多かったようである。

飯島氏の遺産をさらに有効に活用するため、これからも折にふれ鑑賞の機会を増やしていきたい。

(学芸部門理事)

第二回こどもヤングの江差追分・民謡発表会

こどもたちの笑顔があった!!

本発表会は、好評を博した昨年に引き続き今年も三月八日に江差追分会館で、江差追分会の課題であります「後継者育成」の一環として開催しました。

今年も、保育所の幼児から二十代の若手のホープまで約百人が出演し、会場は、我が子や我が孫の晴れ舞台を見ようと会場一杯の保護者等であふれました。

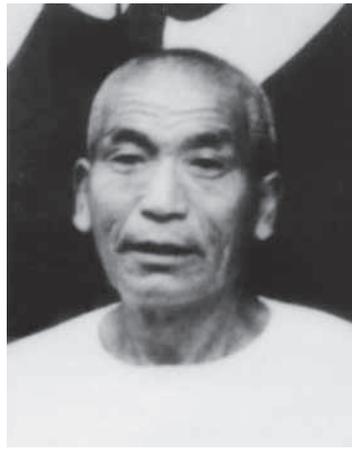
オープニングは、地元の高校を一週間前に卒業した前田真伸君と高校二年生の辻彩樹さんの息のあった司会進行

で始まり、まず地元で追分を習う三人の子供たちによる江差追分の大合唱で幕を開けました。

続いて二つの保育園の園児による江差追分の唄とソーラン節の踊りが披露され、ヤン衆の格好をした男の子とニシンを運ぶ「もっこ」を背負った愛らしい女の子の踊りに会場からは大きな拍手があがっていました。また、太鼓教室には、今回は昨年の六名を上回る一四名の子供たちが放課後、追分会館に来て熱心に指導を受けました。その

江差追分の「母唄」 江差三下り(中)

江差追分会副会長
江差三下り会幹事長
馬川政紀



近谷林三郎 師

江差三下り 唄の保存と伝承

江差三下りの唄は文化年間まではお座敷等で持て囃されていたが、その後追分節の隆盛もあって一部愛好者と花柳界だけで歌い継がれてきた。明治末期になって「熊野リツ師匠」が傑出し、明治三十一年生まれの一番弟子・「近谷林三郎師匠」に引き継がれ、昭和になって近谷師匠の一番弟子の「土門譲師匠」へと引き継がれてきたのである。

昭和三十三年 近谷・土門両師匠を中心に十人程の江差三下り愛好者が相集い、江差三下り保存会を結成し、江差三下りの保存・伝承と後継者の育成に努めてきたのである。

この時期には現役の芸妓さんや現役を引退して間もない芸妓さんも会員として籍をおいていたので、三味

線伴奏には事欠くことがなかったし、会員も四十数人を数えるようになっていた。

更に昭和三十八年、江差町教育委員会が主催する「成人学校」に三下り科が開設され、この時期から江差三下りはお座敷歌から江差の郷土芸能として町民に親しまれるようになっていった。

この成人学校の講師をしていたのが近谷・土門両師匠であったが、残念ながらお二人共故人となってしまった。

一方、江差三下りの伴奏はお座敷歌であっただけにほとんど三味線だけであった。

従って、江差三下り保存会や成人学校の三味線伴奏をしていたのが芸妓を引退した宮川タカ女を始めとし



土門譲師



熊野リツ女

た数名の女性であった。

その後、近江タキさん、久保キクさん等によって受け継がれ、現在では江差町に数名、札幌、函館、愛知県の中でも優秀な伴奏者が輩出している。

ところで、三味線のみ伴奏であった江差三下りも時代の流れと共に、尺八伴奏も付けるようになった。

昭和三十七年頃、当時江差追分の尺八伴奏者として活躍していた湊谷七郎氏が保存会の練習に参加し、試行錯誤の末三下りの尺八伴奏を完成し、現在では三味線と尺八伴奏を併用するようになった。

近年は、江差三下りも民謡界で認められるようになり、尺八を志しているほとんどの方が三下りの伴奏をするようになっていく。

(次回最終回は、踊り及び三下りの現状と発表大会について掲載します。)

指導に当たったのは、追分日本一の寺島絵里佳さん。今年の披露曲は「秋田おぼこ」と「花笠音頭」です。寺島さんが唄い、一四名のこども達との息のあったばちさばきが披露され、大観衆を前に緊張した中にも、ステージを終えた子供達の顔には満足をした笑顔がそこにはありました。町はこの発表会を今後も継続して開催していく方針であり、他の地区からも出演して交流ができれば良いと思います。



地区・支部コーナー

江差追分の鑑賞と歴史的背景

伝統文化こども教室

旭川市忠和中学校三年生を対象に八月二十六日(火)三時間目二十五名、生徒入れ替え四時間目二十五名、合計五十名、江差追分の説明と体験(ソールン節も含めて)又、尺八、三味線、太鼓等の説明をしました。

昨年迄、三十時間の授業でしたが、今年は鑑賞と言う事で九年目を迎えて居ります。

今回の教室も、校長先生はじめ教頭先生にもご出席を賜りまして、手前味噌ですが大変好評を得ました。また、生徒たちからこの教室の感想や印象に関してのたくさんアンケートもいただきました。全員の感想をお届けできないのが残念です。

生徒たちは、信州で発生した唄が、各地を廻るうちに徐々に形を変えていく経過、また初めて聴くという北前船の話など大変興味を持ったようでした。さらに尺八の和楽器についても、その特性、役割等を説明。最後に江差追分踊りを披露すると目を丸くして熱心に鑑賞してくれました。今後

旭川支部長 佐々木洋子



とも生徒たちに江差追分の唄とその歴史的背景を説明してまいります。

生徒たちの感想

男子

日本を代表する民謡が「江差追分」だなんて、まったく知りませんでした。今回の学習で日本人として知る必要がある「文化」をしっかり学ばせてもらいました。その後でパソコンで調べて見ると結構な量の資料が

あり、民謡の中でもっとも慕われているんだと思いました。

声の強弱など取り入れて唄われていて、しかもそれひとつずつに意味があつて、興味深い。一小節が長く、唄うのは難しすぎて、息が続かない。けれど、この江差追分は民謡の中でも、たくさんの人によって、語り継がれていると思うとすばらしいものだと感じました。

女子

江差追分の最初の印象は、「昔から伝わる唄なんて楽しくなさそう」と思っていたけど、江差追分の歴史を教えてもらったたり、その曲を生で聴いてみると、結構楽しいなと思いました。楽器も日本らしい三味線や尺八といった穏やかな楽器が使われていました。歌い方も、八種類のものがあつて、それを組み合わせると歌うとすごく難しいけど。それがすばらしい唄を作り上げているんだなあと感じました。歌詞は、短いけど歌い方や踊りによって歌詞の意味の深さを表しているんだなと思いました。短時間だったけど、江差追分について知ることができたし、すごく貴重な体験ができて良かったなと思いました。

民謡体験授業 滝川高校でも

北海道立滝川高等学校一年生九十三名を対象に滝川支部の水尻繁信準師匠他四名により九月十七・二十六日に江差追分の唄指導及び各種民謡の指導を実施しました。平成二十一年度も実施とのことです。



江差追分

渡島協議会の新会長に

佐藤隆広氏を選出

平成二十年一月二日六日に函館市昭和町会館で本協議会の総会が開かれました。役員、支部代表及びオブザーバーの方々約三十名程が出席。佐藤隆広副会長の開会宣言ではじまり、



市戸脩会長より「来年は第五回発表会の節目の大会。みなさんのご協力をお願いします」と挨拶。山内藤一北支部長を議長に選出し、内村徳蔵事務局長より平成十九年度の事業、決算報告、平成二十年度事業計画案、予算案等が提案され、いずれも可決。役員改選があり、市戸会長に代わり、佐藤隆広副会長が新会長に選出されました。

佐藤新会長は「市戸会長の築いた功績を汚さないよう協議会の発展のために精いっぱい頑張ります」と力強く就任挨拶。

新役員

副会長 石田盛一(留)

福田継男(新)

事務局長 内村徳蔵(留)

監査 野村勝繁(留)

松倉武次(留)



**江差追分会珠洲支部に
江差町から感謝状の贈呈**

石川県珠洲支部

石川県珠洲市と江差町は、平成十年に友好都市の契りを結びました。その十周年を祝う記念式典が、平成二十年十一月二日珠洲市内のラポルトすずで挙行され、席上両まちの友好促進に貢献があったとして、珠洲支部に濱谷一治江差町長から感謝状が贈られました。式典後のアトラクションでは、江差追分全国大会第二九回優勝者の木村香澄さんが正調江差追分を朗々と歌い上げ観衆を魅了しました。珠洲支部会員が伴奏とそい掛けを担当し、江差追分踊りも披露しました。

兵庫県尼崎に響く江差追分

第三回江差追分関西地区発表会盛大に開催する

関西地区運営協議会 文 渡辺傳次郎 写真 山本喜佐雄

二月二十八日(土) 第三回江差追分関西地区発表会が兵庫県尼崎市労働福祉会館において盛大に開催されました。「江差追分とふるさと唄」を副題とし、浅沼春義正師匠による模範歌唱と研修、細川澄美枝準師匠(当時)の踊りを添えての江差追分と、地元の日本民謡なにわ会の久保名津絵家元、京都小田会の小田長恵会主による一般民謡のゲストをお招きしたの舞台となりました。

江差追分の普及および会員の技術向上と親睦を目的とした発表会ですが、二回目より一般民謡を取り入れ、さらに今回はゲストを迎えるという初の試みでした。百名の参加者と三百名を超える来場者の熱気で会場は大いに盛り上がり、一般民謡愛好者にも江差追分の魅力を存分に楽しんでもらえたのではないかと自負しております。また、今回の成功により、集客による江差追分愛好者の増大を望む我々にとって、明るい道筋が見えて来たと思われまます。賛助出演の仲間を募るなど、大会実行委員長を務

めた兵庫県尼崎支部の森田力雄支部長のご尽力と各支部の協力に感謝いたします。

我々は、かつて北前船の往来により「昆布ロード」としての繋がりを持っていた江差と関西地区が「江差追分ロード」として深く繋がる事を夢見ています。

江差から遠く離れた関西地区ではありますが、江差追分に感動する心は同じです。江差追分を通じ、心を繋げる素晴らしい社会づくりに邁進する所存です。



本年度事業の主な内容

一、全国大会

・日程

九月十八日(金)～二十日(日)

・会場

江差文化会館

・出場者の年齢区分

① 一般 平成二十一年一月一日で

満六十五歳以下の者。

② 熟年 平成二十一年一月一日で

満六十六歳以上の者。

③ 少年 中学校三年生以下の者。

・アトラクション

各地区からの民謡披露(予選会)

及び奕世伝来の奥義・江差のうた

の源流とその魅力(仮題)

二、後継者育成事業

・今年度も江差追分会から江差町・

旭川市・滝川市の各学校へ指導者

を派遣して、後継者育成を図ります。

三、江差追分セミナーの開催

今年度も十一月と二月に次の日程

で開催します。

① 十一月 五日(木)～七日(土)

十二日(木)～十四日(日)

十九日(木)～二十日(金)

② 二月 四日(木)～六日(土)

十一日(木)～十三日(土)
十八日(木)～二十日(土)
二十五日(木)～二十七日(土)

受講料は、お一人様一万五千元ですが、連続しての参加者については、受講料が五千円が割り安となります。

四、保存伝承事業

今年度新規事業として「全国大会」の模様が記録されたカセットをDVD化(三百本程度)。

新旧役員交代

今回役員改選がありまして、次の

理事の方々が代わりました。

・新任

王藤 正蔵(地区部門・東北地区)

久保田勝美(芸能部門・札幌地区)

千葉 栄人(芸能部門・東北地区)

・退任

小野 常光(地区部門・札幌地区)

田村 重光(地区部門・道東地区)

佐々木東雲(地区部門・東北地区)

新支部の承認

今回の理事会で新たな支部が承認

されました。

一、金沢支部(北信越地区)

・支部長 川井 清
・会員数 三十名

二、大阪春風会支部(関西地区)

・支部長 松村 善樹
・会員数 二十名

三、東京光が丘会支部(関東地区)

・支部長 佐々木トキエ
・会員数 二十名

指導資格者認定

今回新たに次の方々が指導者となりました。

【正師匠】

佐藤隆広(函館西)・高清水勲(涛声会)・栗村翠光(札幌翠光)・杉

山由夫(かもめ会)

【師匠】

森信佐句(愛知尾張) 細川澄美

枝(札幌山鼻)・奥泉勇篁(札幌鷗

憧)・松長辰雄(川崎)・小野寺安

喜(東京練馬)・佐竹春敏(滝川)【準

師匠】

大柳宣之(大阪金剛)・管野トミ

子(帯広)・久保田春男(釧路)・

瀧本豊壽(深川)・稲荷山治(南空

知)・高橋きぬ子(南空知)・水尻

繁信(滝川)

【講師】

松村善樹(兵庫県尼崎)・石井建

三(大阪天満)・鈴木絃風(札幌山

鼻)・伊藤逸栄(苫小牧銀声会)・

須山登(京都やまびこ)・管野繁子

(旭川南)・斉藤与織子(札幌ライ

ラック)・宮園真壽美(札幌北)

【準講師】

細木重雄(帯広)・長谷部千栄子

(苫小牧観昇)・木村八重子(鷗声

会)・能登谷秀雄(声友会)

事務局より

四月一日付けの江差町人事異動に伴い、事務局でも次の職員が異動となりました。中村書記については、一年間という短い期間ではありましたが、皆様方には、大変お世話になりました。後任者であります平野書記につきましても、前任者同様よろしく願います。

前任 事務局書記 中村 博之

後任 事務局書記 平野 一寿

【編集】 岩淵啓介・松村 隆

館 和夫・高田 裕

【企画】 江差追分会事務局